



“プロジェクト最終評価終了！！”



「沖縄連携によるサモア水道公社 維持管理能力強化プロジェクト」

サモアの水道事業は、サモア水道公社（SWA）により運営されており、全人口の約85%にあたる約16万人が給水サービスを受けています。水源は比較的豊富に存在するサモアですが、高い無収水率（60%以上）や雨季の濁水処理対応、水道料金徴収体制の未確立など、SWAは様々な課題を抱えています。これまで、沖縄県宮古島市による草の根技術協力事業「サモア水道事業運営（宮古島モデル）支援協力」や、沖縄県企業局が実施する課題別研修「大洋州島嶼における水資源管理・水道事業運営」への参加を通じ、SWA職員は基本的な漏水対策技術の習得と適切な浄水処理法の理解など一定の成果を得ることができましたが、SWA組織全体への知識・技術の普及は十分とは言えません。本プロジェクトでは、引き続き、沖縄県内の水道事業体による協力のもと、給水人口が最も多いアラオア給水区（約1.8万人）を対象に、適切な水圧管理や管路施工・漏水修理、漏水探知等による無収水対策、並びに水質管理体制の整備支援と浄水場の維持管理強化による水質の改善を図ります。また、各活動における内部研修を充実・強化し、SWA組織全体への技術浸透も図っていきます。

（1）第7回JCC（合同調整会議）と終了時評価結果報告

プロジェクト期間を半年残し、2019年2月20日から3月8日にかけて終了時評価が行われました。これまでの活動の進捗や実績、目標の達成状況・達成見込みについて確認し、プロジェクト活動の評価結果がJCCの場で発表されました。プロジェクト目標の4つの指標は、いずれも達成、もしくは達成見込みという良い結果となり、無収水率35%は現時点で達成できていないものの、プロジェクトが終了する8月には達成する可能性が高いことが確認されました。



「CEPSOは、マネージャーから現場の技術職員まで、様々なレベルでの能力向上に寄与したSWAで実施した一番の素晴らしいプロジェクトとなりました。多くの職員も沖縄を知り、サモアと同じ雰囲気を持つ沖縄を親しく身近に感じています。無収水率が30%を切る勢いで、職員が一丸となり、プロジェクト終了まで頑張ります。また、プロジェクト終了後も、技術と活動を維持していくように努力します。」と、ジェイミー総裁

は、謝辞を込めた閉会の言葉を述べました。

今回が最後となるJCCには、地方課や下水道課のマネージャー（部長）も参加。プロジェクトからの学びはSWA全体で共有され、今後、他部署での活動展開が期待されます。

特集

- ・ 終了時評価結果
- ・ 最新情報（人・イベント）
- ・ コラム：岸本前チーフ・アドバイザー

評価は、PDM（プロジェクト・デザイン・マトリックス）と呼ばれるプロジェクト活動概要表に基づき、評価分析コンサルタントによるプロジェクト関係者へのヒアリング・アンケートの実施、活動の実績、実施プロセスの検証等が行われたほか、国際的なODA（政府開発援助）評価の視点である「DAC評価5項目」（①妥当性、②有効性、③効率性、④インパクト、⑤持続性）を用い、調査団、専門家、カウンターパート（SWA）および関係機関との協議・合意結果をとりまとめた「合同評価報告書」が作成され、SWAとJICA間で署名が行われました。評価5項目とプロジェクトの達成状況は以下のとおり。

① 妥当性	高い	サモア及び日本の政策、アピアのニーズに合致している。
② 有効性	高い	プロジェクトのコンポーネントはプロジェクト目標達成に有効であり、プロジェクト目標は達成見込みである。
③ 効率性	比較的高い	各成果は達成見込みであり、活動や投入は概ね順調に実施されている。
④ インパクト	比較的高い	上位目標の達成見込みは高い。
⑤ 持続性	比較的高い	政策面：サモアの政策（SDSやWater for life）では、引き続き安全な水の安定的供給を重要視している。 技術面：C/Pの技術力は向上している。SOPの利用と更新、研修計画の充実、工具の適切な保管が今後の重要事項である。 組織面：SWAサービス改善へのコミットメントは強い。職員の離職に伴って技術や知見が失われないようにする対策が今後の重要事項である。 財務面：過去2年度、黒字を達成し2019年7月に水道料金を値上げ予定である。EU財務支援が続けば施設整備も促進される。

CEPSO プロジェクト概要

(Capacity Enhancement Project for Samoa Water Authority in cooperation with Okinawa)

【実施期間】
2014年8月14日～2019年8月13日

【プロジェクト対象地区】
アラオア給水区（約2,500世帯1.8万人）

【プロジェクト目標】
アラオア給水区に安全な水が安定的に供給される

【成果】

1. 管路施工・漏水修理能力強化
2. 配水管理能力強化
3. 漏水探知能力強化
4. 水質管理体制強化
5. 浄水場運転改善能力強化

【実施体制】
日本側／沖縄県内水道事業体及び関係機関
サモア側／サモア水道公社（SWA）

【長期派遣専門家】
チーフアドバイザー1名
プロジェクト調整員1名

【短期派遣専門家】
各分野の専門性を有する沖縄県内の水道事業体及び関係機関からの派遣

【提言事項】

プロジェクト終了時の8月まで

- ① 標準作業手順書（SOP）の順守
- ② 水質検査項目のうち、SWAで測定できない25項目の検査方法検討
- ③ 維持管理班から資産管理班へのGPSデータ送信の確実な実施
- ④ CEPSOによる現場での研修・OJTとSWA年間研修計画の統合
- ⑤ スタッフの離職に伴う技術や知識の損失による影響の最小化

プロジェクト終了後

- ① SOPの継続的な利用及び更新
- ② CEPSOを通じて強化された技術や知識の他地域への展開
- ③ MapInfoにおけるデータの継続的な更新



何よりも職員の能力向上への貢献が有難い、と総裁



提言を含め、正しい評価に謝意を述べる市街課長



SOP通りの新給水管の設置を、岩瀬課長も確認

最新情報（人・イベント）

（１）料金滞納顧客の水道メーター差止め開始

水道料金滞納による未収入金は、6ミリオン・タラ（約2.5億円）にも上り、総裁がいよいよ本腰を上げました。2018年11月2日から、水道料金滞納者への水道差止め作業が開始されています。第1回目は、商業課、工務課、市街課の約50名の職員が、市街課エリアを分担し、90日、かつ300タラ（1万4千円）以上の滞納者の水道メーターを差止めるために各戸を訪問しました。2019年5月まで、ほぼ毎週金・土曜に、集中した水道差止め作業が行われ、顧客へ水道料金支払いを促します。

とある家では、資産管理班職員（右写真）が作業を始めようとすると同時に、世帯主が車を飛ばして帰宅。すぐに支払いを行えば差止めは行わないことを約束して、一旦、作業を中止しました。多くの滞納者は、水道料金支払いへの意識が低く、家庭内漏水や蛇口を閉め忘れるなどの水の無駄遣いが見られます。そして、その高額な水道料金が滞納につながっているのです。水道メーター差止め作業中に、数か所の違法接続も発見されました。SWAは、全島でこの取り組みを行います。



民家のメーターを差止め。笑顔の奥に苦労あり。

（２）EPS（生物浄化法）セミナーin フィジーへの参加

本プロジェクトの短期専門家でもある中本教授は、2013年からフィジーでも、EPSによる村落給水プロジェクトで活躍され、大きな成果を上げています。現在、フィジー政府は独自予算で村落へのEPS設置を進めており、大洋州諸国への推進を目的としたセミナーが、2019年3月12日～13日にフィジーのスバで開催されました。サモアからは、SWAジェイミー総裁、地方課マネージャー、水質班リーダー、市街課無収水班のエンジニアリング・オフィサー、そして高良チーフ・アドバイザーが参加。生物浄化法を採用するアラオア浄水場が、都市型給水にも適する事例として、発表を行いました。

フィジーの元シニア・ボランティアの塩入さん、沖縄のBlue Waterの矢野さん、そしてサモアからの高良CAの協力のもと、セミナー参加者はEPSのバケツモデルを作製しました。大洋州各国の水道関係者は、EPSが都市・村落給水ともに有効であることを理解し、セミナーは、周辺国とのネットワークを築く、良い機会となりました。



左から
フィジー・塩入さん
沖縄・矢野さん
サモア・高良CA

（３）名護市環境水道部 照屋晃さん、照屋了平さん、比嘉慶太さん

2019年5月中旬から7月末まで、名護市環境水道部の照屋晃（てるや・あきら）さん、照屋了平（てるや・りょうへい）さん、そして比嘉慶太（ひが・けいた）さんが、それぞれ約1か月の期間で派遣されることになりました。

急きょ派遣の背景には、長年懸案されていたバエア配水本管の新工事が5月から開始されることがありました。本工事は、SWAにとって、最大にして最重要な配水幹線であり、初の大口徑PE管布設となります。急傾斜の現場で難易度の高い工事です。3名の短期専門家は、SWA技術課を現場で支援し、また、市街課維持管理班のSOPに従った現場作業とその監督の強化も行います。

チーム名護！施工監理担当者のフォリガへの支援を、どうぞよろしくお願いします！



（４）CEPSOハットで熱中症予防

プロジェクト広報を兼ね、炎天下での作業の熱中症防止のために、CEPSOロゴ入りの帽子を作成し、市街課職員とマネージャーたちに50個を配布しました。特に、浄水場の砂かき担当職員は大喜びです。日常業務に活用してください。（後ろ面にJICAとSWAのロゴあり）



お問い合わせ先 本プロジェクトに関するご意見、ご質問、ご感想等がありましたら、以下のメールアドレスまで送付ください。

CEPSOプロジェクトデスク SWA本部(TATTE Building) & ヴァイテレ事務所内 アピア、サモア
連絡先：✉ :cepsopj@gmail.com ☎ : (+685) 770.2440 担当：田中(プロジェクト調整員)

コラム：岸本 健 チーフアドバイザー、お疲れさまでした！

2018年11月4日に、2代目チーフ・アドバイザーの岸本さんが、2年の任期を満了、離任されました。いつも朝一番に出勤、職員とともに汗を流し、日常業務に当たられました。帰国された沖縄で、山あり谷ありのサモアでの活動を振り返って頂きましょう。

プロジェクト2年間の感想

岸本 健

前チーフアドバイザーの高良さんが2年3カ月活動した後、2年間を中継ぎした岸本健です。派遣期間を終え11月6日に帰沖し一息ついてるところです。解放されたリラックスした気分でざっばらんに派遣期間について話したいと思います。

まずはプロジェクトについて。高良さんから引き継いだその時点ではプロジェクトを進める手法は大筋で固まっていたのですが、その手法を踏襲することが私には大変重圧でした。引継ぎ時点からプロジェクトの目標を達成することの困難さを実感させられる毎日でした。しかし、持ち前の楽天的な気質が沖縄人の気質が「テゲーで（肩の力を抜いて）」と気持ちを切り替え、さらに調整員の富山さん、後任の田中さん、無収水専門家の服部さん、高良さんの協力と大きな支援で短期専門家を迎えプロジェクトを進めることができました。任務を終えた今、プロジェクトの目標や個別の活動についてではなく全体的な感想を述べたいと思います。

OJTで漏水調査チーム職員を育成。チームワークもバッチリ！



初めてこのようなプロジェクトに参加し、サモアのお国柄や人の気質、仕事についての考え方等、日本人との大きな隔たりを目のあたりしました。

サモア水道公社（SWA）はそれぞれの役職でのマネージメントが徹底されていないため、事業全体の有機的なまとまりが希薄であると感じました。例えば現場でのテクニシャンが実施している個々の作業の指揮監督が十分でなく、エンジニアや課長は個別の作業の終了の確認を重視。個々の作業の施工状況の評価を重視しないので現場では工程の省略が日常的に起こり、同じ修理作業が対処療法的に繰り返されていました。また、プロジェクトを担う課内の班の連携、課と課の連携が弱いと感じました。本プロジェクトは技術的な強化と同時に個々の作業がどのように行われるべきか、それがプロジェクト目標にどのように

繋がっているか、さらに班の連携、課の連携が目標達成に大切であることを学習する場にもなったと思います。プロジェクトが最終段階に近づいた現在は、成果としてそのような連携・協働ができつつあると感じました。

続いてサモアでの生活です。サモアの人々はとてもフレンドリーで笑顔を絶やさず嫌な思いをしたことはありませんでした。SWAのスタッフはもちろんですが銀行やスーパーマーケットなどでも私の下手な英語に快く付き合ってくれました。アフターファイブや休日に最も楽しく多くの時間を費やしたのが読書です。二番目に散歩。JICA

サモアのドミトリーの図書館を大いに利用させてもらいました。散歩はファレアタにあるスポーツコンプレックスの周りとロバートレイスの墓のある山に登ることでした。

2年間の最後3カ月を妻とサモアで生活し、週末にウボル島の南側やサバイ島をドライブできたのも楽しい思い出になりました。SWAの皆さんやプロジェクトに参加・支援していただいた全ての皆さんに感謝です。



職員たちからプレゼントされたサモアのシャツを着た岸本さん。歌あり笑いあいのアットホームな送別会でした。